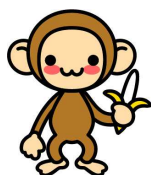


H18.4.14

NST NEWS

第 5 号

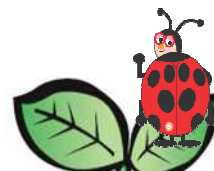


認知症と拒食って
関連あるの？

拒食の原因って何？

2/23の院内学習会に御多忙中にも関わらず多くの職員の皆様に参加して頂きありがとうございました。内容は経過と現状などを中心に、温泉病院でのNST活動を報告させて頂きました。回収させて頂いたアンケートの中に多くの意見、ご質問がありまたしたので、できる範囲でお答えしたいと思います。

Q1. 拒食の原因について教えてください。



拒食の原因は点滴による満腹感、薬による副作用、嗜好、認知症などさまざまです。当院の患者様は高齢者が多く、認知症と関連した拒食が殆どではないかと考えられます。食べ物だと認知できなかつたり、食べる行為を忘れています。

では今回は認知症が原因ではないかと考えられる症例を紹介したいと思います。

症例

A氏 (80歳代, 男性)

病 名 : 老人性認知症、逆流性食道炎、慢性気管支炎

入 院 : H17年9月

依 頼 理 由 : リハビリ目的で入院していた際 (H17.6) は食欲良好で 52kg 程度の体重があった。気胸にて他院に転院した頃から食欲低下し、当院に再入院した際 (H17.9) には 38kg となっていた。食事量は 1~8 割と変動があり、拒食傾向が強い。(H17.10.回診開始)

依 頼 前 食 種 : 心 7g 刻全小 朝全粥 朝ヨーグルト

現 在 食 種 : 心 7g 5 分菜全 (副食 1/2) 朝全粥 朝ヨーグルト
〔+〕昼エンジョイゼリー 1/2 個

経 過 : 依頼後しばらくは食種が安定せず、栄養補給は IVH に頼らざるを得なかった。口から摂取してもらうことを目的として嗜好に合わせて、みかんとアイスだけの時もあった。無理はしないということで 11/30 に病棟観察となったが、次第に安定し始め現在は上記食種で平均 8 割ほどの摂食率と安定し、体重は 41.5kg となっている。(H18.1.25)

認知症と拒食の関連

一般に、認知症は転居、入院、施設への入所、配偶者の死、退職など生活上の変化がきっかけになることが多いと言われています。その人らしい人格を作り上げていた精神構造が環境の変化で崩れて、孤独の中で今まで通りにふるまえなくなります。

症例では“他院への転院をきっかけに食欲低下した”とありますが、認知症とのはっきりとした関連はわかりません。しかし本人の嗜好に合わせた付加食をつけることにより心理的ストレスを和らげ、口から摂取することを維持できたのではないかと考えられます。そして主治医や看護師が本人のペースを把握し、状態に合わせて摂取してもらうことを心がけて対応した事が良い結果を導いたのではないのでしょうか。

今回はほんの一例です。認知症は心の病であることが多いため、症状や原因は人それぞれですので、臨機応変に対応することが重要となります。

Q2. 大人数での回診はビックリすると思う。グループ分けしてもっと複数の患者様と接してほしい。

現在の回診は医師、看護師、薬剤師、栄養士2名の計5名で行っています。

以前(第3号)で紹介したように、それぞれに重要な役割があり、現在の回診メンバーが最小人数だと判断しています。栄養士2名のうち1名は書記係になります。しかし今後は患者様に圧迫感を与えないように、事前に病棟から連絡があれば病室に入る人数をさらに制限するなどの配慮をしていきたいと思えます。

NSTは回診に参加しているメンバーだけで完全に機能するわけではありません。回診に参加しないメンバーとも必要があれば情報交換を行い、皆で患者様の栄養をサポートしています。また、メンバーだけではなく職員の皆様の御理解と御協力が必要です。

今回の勉強会のアンケートで“NST NEWSを読んだことがありますか”の問いに8割の職員の方々が“はい”とのお答えで、少しずつですがNSTの活動を知ってもらうことができていた事がわかりました。しかし、まだまだ認知率100%とはいかないようなので今後も頑張っていきたいと思えます。

NSTに関する御意見、御質問がありましたら気軽にNST委員にお声かけ下さい。
今後もNST NEWSを通して、できる範囲でお答えしていきたいと思えます。

協立温泉病院・栄養管理委員会

